

令和7年度沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科入試 工芸専修 出題意図

作品

- ・それぞれの研究室における技術力及び表現力を備えている作品かを評価する。
- ・それぞれの研究室の素材や技法を活かした作品かを評価する。

筆答試験

- ・出題に対して、工芸の様々な領域について横断的に知識を有しているか、また自分自身の言葉で的確な文章表現で述べているかを評価する。
- ・現在の伝統工芸の現状を歴史的背景も含めて把握し、専門的かつ幅広い知識や情報をグローバルな視点で述べられているかも含め総合的に評価する。

実技試験（染研究室）

- ・与えられたモチーフ（自然物）を、型紙図案へ展開できるか。また白地型紙を理解しているかを評価する。

実技試験（織研究室）

- ・植物について普段から観察しそれを考察する豊かな感性と、その解釈から具現化する創造性を評価する。
- ・設計について、必要な基礎的素養としてコンセプトに独自の世界観を構築し、デザインに反映されているか、形態に則した図柄の構成ができるかを評価する。
- ・専門的素養として沖縄の織技法の紡技法を理解した設計ができるか、形態、技法にあった素材と番手、染料を選択した具体的な制作計画ができるかを評価する。

実技試験（陶磁器研究室）

- ・修士課程でどのような展望を持ち制作に取り組むかに着眼し、評価する。
- ・制作内容を第三者に齟齬が無く説明が行えるかに着眼し、評価する。

実技試験（漆工研究室）

- ・基本的なデッサン力や表現力、独創性を備えているか、また、漆芸に関する専門的な知識を有し、各技法や技術を理解し、完成予想図に落とし込んでいるかを重視して評価する。
- ・説明書の項目にしたがい作品の内容について、的確かつ分かりやすく記載されているかも含め総合的に評価する。

面接

- ・工芸領域における幅広い教養と専門的素養を備えているかを評価する。
- ・研究目的や研究計画を的確に述べることが出来るかを評価する。

【問題】

「これから伝統工芸のあり方について」自分の考えを述べなさい。

但し、自己自身の専門領域のみの記述にならないように、幅広い領域で考察すること。

※ 問題に関する質問にはお答えできません。

《注意事項》

1. 原稿用紙3～5枚(1,200字～2,000字)で記述すること。
2. 記述は所定の時間で行うこと。

令和 7 年度

沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 生活造形専攻
工芸専修 染研究室 実技試験問題

試験時間 13：30～16：30

配布物 イラストボード 1 枚、下書き用紙 2 枚、トレーシングパーパー 2 枚、
カーボン紙 1 枚、直定規、L 型定規、三角定規、絵皿 2 枚、筆 4 本、
ボール、雑巾 1 枚、アクリル絵の具(黒・白)、墨汁(共同で使用)

モチーフ

使用できるもの 各自分で用意した図案用具(鉛筆、消しゴム、マジック類、定規)

* 試験開始 30 分までに、監督者に確認してから使用してください。

注意事項 試験の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと

※問題に関する質問にはお答えできません。

問題

型染を想定して、配布されたモチーフを使い白黒で型紙図案をイラストボードに制作しなさい。ただし白地型の図案で制作すること。

モチーフ：ミニバラ
マレービューティ

制作上の注意事項

- ① イラストボードの裏面に、鉛筆で受験番号を記載すること。
- ② 裏面に型紙図案の上下がわかるように矢印（↑）で上を明記すること。
- ③ 型紙図案の大きさは、42cm×30cm、縦・横は自由である。
- ④ 42cm×30cm の枠は、イラストボードの中央に収まるように線を引くこと。
- ⑤ 2種類のモチーフを使い、型紙図案を作成すること。
- ⑥ 白地型の図案で、配色する模様には黒（絵の具、墨）で着色し、糊で防染する箇所は白（イラストボードの色）で残すこと。
* 絵の具の白は、修正で使用しても良い。または使用しなくても良い。
* 油性マジックは、修正で使用すること。
- ⑦ カーボン紙、トレーシングペーパー、下書き用紙は図案作成のために自由に使用しなさい。または使用しなくても良い。
- ⑧ すべての配布物は、持ち帰らないこと。

令和7年度

沖縄県立芸術大学 大学院造形芸術研究科生活造形専攻

工芸専修 織研究室 実技試験問題

植物をテーマに、下記の条件で壁面装飾布の織物デザインをしなさい。

(記)

○技 法： 緯を使用する（経緯紗、経紗、緯紗のいずれか一つ）

○寸 法： 幅 180cm×長さ240cm（90cm幅の2枚組）

○色 彩： 全体図のデザインが分かる様に着色（縮尺1／10）

○答案用紙： B3ケント紙 1枚

○下書き用紙： B3方眼紙 2枚

○実技解答用紙を記入する事

令和 7 年度
沖縄県立芸術大学
大学院造形芸術研究科生活造形専攻
工芸専修 織研究室 実技試験解答用紙

- 受験生番号 :
- 作品名 :
- 経糸（素材・番手等）:
- 縱糸（素材・番手等）:
- 作品のコンセプト :

令和7年度

沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科

生活造形専攻 工芸専修 入学者選抜試験

陶磁器研究室 実技試験問題

【問題1】

試験時間 13:30～16:30

受験生自身の制作テーマに則って、今後制作する予定の作品をエスキース2点行いなさい。

また、それぞれの作品（2点）についての制作意図などを原稿用紙に、それぞれ400字以内で説明しなさい。

※注意事項

1. エスキースは、画面に正面と側面、加飾も想定して描くこと。
 - ・鉛筆のみで素描すること
 - ・回転体の場合は、正面のみ描くこと
2. 制作の説明には、制作意図や使用する生地土、釉薬（無釉）、焼成温度、雰囲気も併せて記述すること。

配布物

- ・画用紙 2枚
- ・原稿用紙 2枚
- ・鉛筆 3本
- ・消しゴム 1個

令和7年度
沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科
生活造形専攻 工芸専修 入学者選抜試験
漆工研究室
【 実技試験問題 】

試験時間 13：30～16：30

配布物

- ・解答用紙（完成予想図） A3 サイズの白画用紙 1枚
- ・説明書 A4 サイズ 1枚
- ・下書き用紙 A3 サイズ 2枚

使用できる用具

- ・素描用具、色鉛筆

※注意事項

- ・試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと。
- ・定規、コンパス等その他の用具は使用しないこと。

【問 題】

1. 解答用紙 A3 (420mm×297mm) サイズの白画用紙に「夏」をテーマとし、加飾を施した漆芸作品（立体）の完成予想図を描きなさい。
(下書き用紙は自由に使用して良い)
2. 説明書の項目にしたがって作品の内容について記述しなさい。

*問題に関する質問にはお答えできません。

【注意事項】

1. 加飾部分は色鉛筆で着色する。
2. 作品本体の色は「黒」又は「朱」と想定し色鉛筆で着色する。
(本体の着色は「黒」か「朱」か判別できる程度で良い)
3. 加飾部分の素材や技法が分かり易いように表現すること。
4. 定規やコンパスは使用しないこと。
5. 説明書の「作品の環境」とは、使用又は設置する場所・状況・目的・他者との関わり・その他、作品を取り巻く全てを意味する。
6. A3 サイズの白画用紙のタテ・ヨコは自由とする。作品の上下が分かるように裏面上部中央に作品の上部を示す矢印 ↑ を鉛筆で明記する。
7. 全ての用紙の裏面ラベルに受験番号を記入すること。

【提出するもの】

- ・解答用紙（完成予想図） A3 サイズの白画用紙 1 枚
- ・説明書 A4 サイズ 1 枚
- ・下書き用紙 A3 サイズ 2 枚